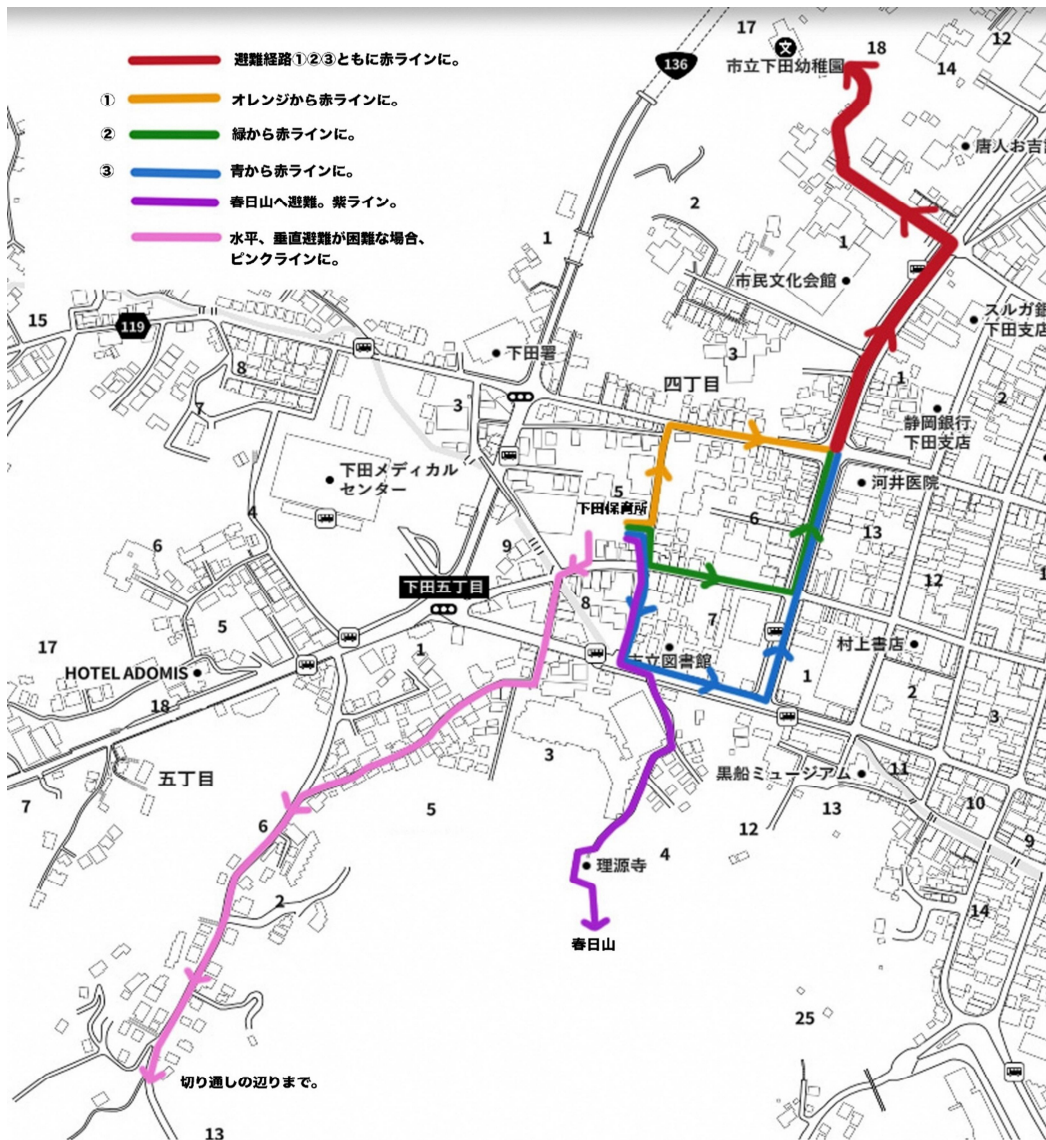


能登地震を受けての対応について～下田保育所～

1 新たな課題

下田保育所は南海トラフ地震で発生した津波を想定して、下図のように旧下田幼稚園への避難を第一として計画を立てている。



(下田保育所避難確保計画より)

1月1日に発生した能登地震を受け、1月4日に下田保育所と教育委員会事務局で課題を共有するため、会議を行った。旧下田幼稚園に避難する上で、新たに想定された課題は以下のとおり。

- まいまい通りが地震で凸凹になり、園児の足や避難車での避難が困難になる。
- 墓地、神社の鳥居の近くを通るため、道が塞がれたり、園児が負傷する可能性がある。
- 繰り返し地震が起こる中で避難は困難。

以上の課題を、防災安全課と下田小学校を交えて開催した「臨時危機管理研修」(1月18日)の場で、以下のように整理しました。

1. 地震が起こった直後、身を守る行動後には情報収集を行う(Jアラート、防災アプリ等)。
2. 津波の想定は難しいが、とくに津波警報や大津波警報が発令された時には、大きな津波が来ることを想定して避難。
3. 避難場所としては、旧下田幼稚園、折戸ハイツ上、春日山の3箇所を想定。今後、地域の防災訓練に参加するなど連携を深め、最適な避難場所を検討していく。

☆人流に逆らった避難は困難

2 避難訓練の実施

1で検討した結果から、以下のとおり避難訓練を実施、参加して避難場所の検討を行った。

(1) 1月25日、下田保育所避難訓練

下田保育所から春日山まで避難訓練(1枚目の図、紫のルート)。

対象:全園児

- 速やかに避難できることを確認。
- ⇒同日付の「保育所通信号外」で保護者にお知らせ

(2) 2月21日、下田小学校の避難訓練

事前に下田小学校に移動。下田小学校の避難訓練を見学してから、春日山へ避難。

対象：5歳児、避難車に乗る園児(0～2歳児)

- 下田小学校児童の避難が約5分で完了。その後、5歳児は5分で避難完了。
- 避難車でも、小学校の校庭を通過して避難できることを確認。
- 小学生の避難訓練を見た5歳児の意識向上。

(3) 3月10日、津波避難訓練

津波避難訓練に、園長等4人の保育士が参加。

- 地域の方に保育所園児の避難を説明、協力を求めました。
- 地域の方から、「平滑川から津波が上がってくるので、川を渡るのは危険ではないか」という助言があった。⇒津波が来る前に速やかに避難

3 今後の避難

一時避難所としては、春日山避難所が一番適している(移動時間、道程等)。

地震が起こった時の状況にもよるが、必ずしも旧下田幼稚園への避難に捕らわれず、柔軟に避難する。

春日山避難所に避難する場合は、まず紫色のルートを確認する。通行が危険であれば、下田小学校に校門から入り、校庭を通過して避難する。